



# Ambitious

令和4年5月19日  
尾道市立高西中学校  
研究推進部

先日（5月13日）の研究授業，本当にお疲れさまでした。今回の校内研修では年度当初で慌ただしい日々が続く中，時間を割いて準備をしてくださった小坂先生，矢野先生，保手濱先生，多様な意見を出してくださったみなさまのおかげで，良いスタートをきることができました。今回の研究授業の要点をまとめます。

## 見方・考え方を働かせるために～比較・分類・関連付け～

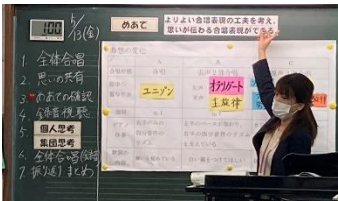
今回も，働かせたい各教科の見方・考え方を明確にした授業づくりが行われていました。見方・考え方を働かせるための手立てとして「比較」「分類」「関連付け」があります。

今回，理科の授業では既存知識と「関連づけ」たり，複数の植物を「比較」したりして植物の種類を「分類」していました。音楽の授業では，過去の合唱と現在の合唱が「比較」できるようにしていました。英語の授業では，自身の考えを項目ごとに「分類」して整理していました。このように「比較・分類・関連付け」をどのような場面で効果的に用いるかが，「見方・考え方を働かせる深い学び」の一つのポイントになるのではないかと思います。

1年 理科



2年  
音楽



## ねらいに迫るために～視点の提示～

設定した課題を解決するためには，根拠となる情報が必要です。しかし，大量かつ多様な情報の中から，課題解決に必要な情報だけを取り出すことには難しさもあります。そんな時には視点を提示することが大切です。今回の授業でも，理科では分類するための視点，音楽では，「強弱」「テクスチャ」など課題を見つける時の視点，英語では相手の要望に沿って提案するという，会話文づくりの視点がそれぞれ設定されていました。

視点を提示することで，生徒に，多くの情報の中から必要な情報を抜き出していくスキルを習得させることができます。また，授業の「ねらい」を達成し「身につけたい力」をつけることにもつながります。

## 表現力を育成するために～“相手意識”のある表現にこだわる～

今年度は，表現力（＝ことばや情報を使いこなして相手にわかりやすく伝える力）の育成をテーマにしています。今回の英語の授業では，ALTの立場や状況をよく確認したうえで，どうすればよりよい提案をできるかについて追及していました。この授業を見て，気づいたことは，表現力の根本にあるのは「相手意識」だということです。どれだけ正確なことばで，正確な情報を伝えたとしても，それが相手にとって必要のない情報や，相手にとって理解しがたい複雑な情報であれば意味がありません。だからこそ，“相手のために”ことばや情報を適切に取捨選択して表現することが大切です。こうした相手意識をもたせる表現の工夫は，英語だけでなく全教科で訓練していく必要があります。今後の研究授業でも“相手意識”のある表現にこだわった授業づくりが見られ，協議ができるといいなと思います。

3年 英語



### 指導・助言【才谷指導主事】より

(1) 高西中学校の授業研修の良い変化

- ① 生徒の目線で言葉を発せられている。 ②課題・改善案が遠慮なく言える。

(2) ICTの効果の本質

- ① 多様・大量の情報を扱い，試行錯誤が容易になる
- ② 時間的な制限を越え，情報の「可視化」「蓄積」ができる
- ③ 空間的な制限を越え，「相互」かつ「瞬時」の情報の共有ができる

(3) 教員の立場

(知識の)教育を行う人 ⇒ (学びの)伴走者 ⇒ ファシリテーター(生徒の学びを容易にする人，円滑にする人)のように呼ばれ方も変化してきている。生徒の力をどう生かすかという視点が大切である。

3年 英語 題材名「Unit 1 Sports for Everyone」 : 保手濱教諭

	成果	課題と改善策
生徒の実態に合わせた、主体性を引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間に無駄がなく、活動的な「楽しい&amp;しんどい」授業だった。</li> <li>・ALT の状況を踏まえ、アドバイスをするという必然性のある課題設定。</li> <li>・黒板掲示での授業の流れや必要な情報の視覚化、会話の際の例文を示したヒントカードなどの支援があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低学力の生徒への支援 ⇒ヒントカードをルーティーン化し、自然に活用できるように ⇒模範動画を流す際、解説を入れながら少しずつ理解させる時間をとる。</li> </ul>
見方・考え方を働かせ、深い学びを引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考ツールを用いることで、考えの分類ができており、頭の中が整理できた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話文を聞かせるときに、どこに注目して聞くとよいか、視点を提示するとよかった。</li> </ul>
対話的な学びを実現し、表現力を育成する工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒に模範を示させたり、生徒同士で評価しあったりする活動が仕組まれていた。</li> <li>・相手意識をもったよりよい表現の仕方に着目し、追究しようとしていた。</li> </ul>	

2年 音楽 題材名「パートの役割を理解して合唱しよう（教材曲：翼をください）」 : 矢野教諭

	成果	課題と改善策
生徒の実態に合わせた、主体性を引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの過去の歌を映像で振り返ることによって課題を発見し、必然性を生み出していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・検証する条件の違い（前：映像，後：音声）があった。</li> </ul>
見方・考え方を働かせ、深い学びを引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視点をもって課題をあげ、解決させる手立てがあった。</li> <li>・曲の部分を分けて、焦点化して考えさせていた。</li> <li>・既習事項を活用し、理解や思考を深めていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての視点を考えさせるには時間が足りない。 ⇒班ごとに分担して考える方法も。</li> </ul>
対話的な学びを実現し、表現力を育成する工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題について、個人⇒班⇒全体と考えを広げることを通して多面的・多角的にとらえることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共有だけにとどまらず、違うパート（役割）の人と話し合いをすることで、新しい発見が生まれる。</li> </ul>

1年 理科 題材名「いろいろな生物とその共通点」 : 小坂教諭

	成果	課題と改善策
生徒の実態に合わせた、主体性を引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物体 X の正体を、実際に花を分解する作業を行いながら、既存知識を使って見つけるという、必然性のある課題になっていた。</li> <li>・「解明」して「説明」という、課題が明確だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・胚珠、核などを確認できていない生徒がいた。 ⇒写真で例示したり、白い紙の上で作業したり、判別し易くする手立てが必要</li> </ul>
見方・考え方を働かせ、深い学びを引き出す工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を整理するため、思考ツールが効果的に使われていた。</li> <li>・タブレットを用いて、生徒の良い例を瞬時に反映していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思考ツールに書けていない生徒がいた。 ⇒多くの情報の中から焦点化させるため、視点を提示出来たらよかった。</li> </ul>
対話的な学びを実現し、表現力を育成する工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習したことを終末で「説明」させることを通して、知識の粒をつなげ、要点をとらえてまとめる表現力を育成していた。</li> <li>・班での活動により、気づきを共有させていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめる前に、じっくり正しい知識を確認する時間が必要。</li> <li>・交流ができず、個人作業になっている生徒もいた。 ⇒協働のタイミングと方法を明確にする</li> </ul>